

グリーンクリエイティブいなべ ～グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」からカジュアルなSDGs推進を世界へ～

三重県いなべ市（2020年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	東海エリアの奥に位置し、三重県の最北端、岐阜県及び滋賀県に接する、東西文化の交流地。グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を拠点に、緑を経済的・商業的に生かす「グリーンクリエイティブいなべ」のまちづくりで、カジュアルな持続可能性を追求している。当市では、約58%を占める林地面積の多くが未活用であり、森林の荒廃化により獣害の深刻化による農業従事者の離農や山辺エリアを中心とした若者の流出が多い。	2.関連するゴール	
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	森林放棄地を活用したグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を拠点、先導例として、地域商社機能やDMO機能といったまちづくりを官民連携で実施。活動を通してカジュアルなまちづくりに共鳴する市民や移住希望者を呼び込み、鈴鹿山脈の山辺までの市内広域観光回遊を実現する。		
4.自治体SDGs推進等に向けた取組	6.取組成果 小学校及び中学校においては、学習会を15回実施し、児童・生徒のべ522人が参加、市内事業所と連携したINABE SDGs 4T PROJECTは12回実施し、のべ231人が参加しSDGsの理解を深めていただいた。 いなべ市商工会・百五総合研究所と連携した学習会は、53名が参加いただきSDGsの理解を深めていただいた。 さらに、商工会と連携し、2020年度作成したSDGsチェックシートにより市内の事業者へSDGsの啓発と普及を進めることでSDGs実践取組事業者を326団体認定するとともにSDGs推進パートナーを37団体認定しました。		
5.取組推進の工夫	7.今後の展開策 いなべ市SDGsパートナー認定事業者の増加、企業と連携した「INABE SDGs 4T PROJECT」の新規参加事業所の拡充、市内小・中学校への学習会を継続して行うなどの取り組みを行い、SDGsの普及と啓発を行っています。そして実践取組事業者やパートナー認定団体の増加につなげていきます。		
8.他地域への展開状況 (普及効果)	企業と連携による子供向けSDGsワークショップのメディア掲載実績あり。		

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

三重県いなべ市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

三重県いなべ市SDGs未来都市計画

グリーンクリエイティブいなべ
～グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGs推進を世界へ～

2020年度

第 1 期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

三重県いなべ市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	商工会への加入団体数【8.3,8.9】	2018年 967 件	2022年 981 件	2030年 1,040 件	19%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。 SDGsの幅広いワークショップや市内で実施するマルシェ等を通じて、商工会加入を呼びかけるなどの対策を行う。
2	地域産業創出数(累計)【9.1,9.4】	2018年 2 件	2022年 8 件	2030年 5 件	200%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	【小学校】学級満足度調査（Q U）において、満足群に位置する児童・生徒の割合（各年）【4.2,4.3,4.4,4.a,10.2,17.17】	2018年 64.0 %	2022年 73.3 %	2030年 67.0 %	310%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	【中学校】学級満足度調査（Q U）において、満足群に位置する児童・生徒の割合（各年）【4.2,4.3,4.4,4.a,10.2,17.17】	2018年 74.0 %	2022年 64.7 %	2030年 76.0 %	-465%	目標達成度が低いため、第2期計画では校内支援体制の強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
5	子育て支援センター利用者数（各年延べ）【11.3,11.7】	2018年 36,118 人	2022年 22,374 人	2030年 37,000 人	-1558%	目標達成度が低いため、第2期計画では利用方法の見直しを行い取組達成へ向け推進を図る予定。
6	森林整備面積（各年）【12.2,15.2,15.4】	2018年 5.0 ha	2022年 5 ha	2030年 10.0 ha	0%	目標達成度が低いため、第2期計画ではグリーンインフラの視点を加え取組達成へ向け推進を図る予定。

（ 2 ） 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	いなべ版SDGsの普及啓発、官民連携プラットフォーム化	いなべ版フェア＆カジュアルSDGs登録数（累計）	2018年 0 件	2022年 14 件	2022年 50 件	28%	目標値は達成できなかったものの、2022年以降の増加があったため、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。いなべ市及び商工会並びに地銀・地銀系シンクタンクと連携し、登録事業者の増加を図るなどの対策を行う。
2	いなべ版SDGsの普及啓発、官民連携プラットフォーム化	SDGs普及イベントの実施回数（各年）	2018年 2 回	2022年 20 回	2022年 5 回	600%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	いなべ版SDGs「グリーンクリエイティブいなべ」の体系化	年間観光入込客数	2018年 431,632 人	2022年 681,328 人	2022年 800,000 人	68%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	個々の特性を生かした多様性の確立	ユニバーサルデザインフォント普及のためのワークショップ等イベント実施(累計)	2018年 0 回	2022年 3 回	2022年 4 回	75%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	災害から市民を守るまちづくり	カートラベル敷地整備による車可能台数(累計)	2018年 0 台	2022年 13 台	2022年 10 台	130%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIの数値を見直しの検討を図る予定。

第1期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

(3) 三側面ごとの取組の達成状況（自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	グリーンクリエイティブいなべ推進事業	市民と市、まちづくり組織が連携し、未活用になっている地域資源を活用したオリジナル商品や観光コンテンツの開発を行う。また地域産品や地域性のある既存商品を含めて、販路を開拓するため中京圏から関西圏、さらには関東へプロモーション活動を行う。	商工会への加入団体数	2018年 967 件	2022年 985 件	2022年 1,040 件	25%	目標達成度が低いため、第2期計画ではKPIの算出方法を見直し、目標達成へ向け推進を図る予定。
		災害時に有効な手段となるカートラベルや、森林環境保全に関心を持ってもらうためのアウトドアといった防災啓発につながるイベントを市内外で開催する。						
		地域資源を生かして課題をカジュアルに解決するまちづくりをPRし、山辺の空き家活用の移住や店舗誘致へつなげようと、市民を主役にしたワークショップや相談会を開催。交流を活性化させ、都市住民を魅了できる店舗オーナーを発掘。出店へつなげる。						
2	グリーンクリエイティブいなべ施設整備事業	グリーンインフラ施設である「にぎわいの森」内に、本事業の物販施設を整備。ワークショップの展開や、地域回遊ツールの展示により山辺までの観光循環とハブ機能を強化する。	藤原岳、竜ヶ岳、宇賀溪の観光施設利用者数(各年)	2018年 96,787 人	2022年 100,746 人	2022年 100,000 人	123%	順調に進捗しており、第2期計画に記載し、引き続き進捗を確認していく。
3	小規模事業者支援事業	小規模事業者資金利子補給事業 県国の融資制度資金支払利子10%を補助。設備資金及び日本政策金融公庫融資制度に基づく小規模経営改善資金を借り入れて事業を営む人を対象とする。						

2020年度

第1期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

三重県いなべ市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（％）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
4	小規模事業者支援事業	新規創業者保証金補助事業 新規創業志望者が県の融資制度創業資金を借入時、保証協会に支払う保証料1/3(3年間)補助。	地域資源活用ビジネス築支援(累計)	2018年1件	2022年8件	2022年5件	175%	順調に進捗しており、第2期計画に記載し、引き続き進捗を確認していく。
5	新規事業等事前調査事業	「にぎわいの森」を先例とする、グリーンインフラによる商業ゾーンを鈴鹿山脉の麓に構築するため、基礎となる空き家、空き地の調査、事業計画の策定、基盤整備を実施する。						
6	元気みらい都市いなか推進事業	まちづくりに必要な活力と高齢者の積極的な参画を促すため、全世代で、年代にあった運動等を実施。年代にあった健康データ等の取得及び分析をPDCAサイクル化することで、地域コミュニティの活力へと変えていく。	グリーン・ツーリズム推進モデル地区を含む中山間地、山辺への誘客人数(各年)	2018年353人	2022年9,816人	2022年800人	2117%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを推進する。 公共交通調査等を実施し、ニーズに沿った路線の見直しを行い利用者数の増加を図る。また、調査結果によっては、目標値の修正を行うなどの対策を行う。
7	グリーン・ツーリズム推進事業	過疎化や高齢化が著しい中山間地域や山辺において、調理体験や自然体験など住民が主体となったまちづくりを実施。地域課題の解決と交流人口の拡大を図る。また京都産業大学と連携し、若者・よそ者の視点での地域資源の発掘や地域活性化の仕組みづくりを行う。						
8	農業生産における中山間地域等直接支払事業	生産条件が不利な地域における農業生産活動等の自律的かつ継続的な実施が可能となるための指導・支援を行う。この事業は山村振興法及び特定農山村法に指定された地区及び三重県が指定した特認地区を対象とする。						

2020年度

第1期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

三重県いなべ市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
9	福祉バス運行事業	高齢者などの交通弱者の生活交通手段を確保するため、福祉バスを運行する。この運行は官民連携として、運転業務は公益社団法人三重県シルバー人材センター連合会及び三岐鉄道株式会社とともに実施する。	福祉バスの乗車数(各年)	2018年 102,932 人	2022年 75,781 人	2022年 119,000 人	-169%	目標達成に向け、第2期計画でも引き続き取り組むこととした。公共交通調査等を実施し、ニーズに沿った路線の見直しを行い利用者数の増加を図る。また、調査結果によっては、目標値の修正を行う。
10	藤原岳自然科学館自然教室事業	山の麓にある藤原岳自然科学館を拠点に、市民が当市の自然に触れる機会を設け、その素晴らしさ、貴重さを体感してもらうことにより、自然環境を守ることの重要性をアピールする。						
11	ICT 活用事業	教職員及び児童生徒に対し、ICT 活用支援を行い、ICT 機器を有効に活用できる環境を実現する。	(ICT 活用)「学習に進んで取り組むことができる」と答える児童の割合	2018年 0.0 %	2022年 85.5 %	2022年 80.0 %	107%	目標が達成できているが、現状を維持するため、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
12	農作物有害鳥獣対策事業	銃器、檻等により有害鳥獣駆除や、地域で追い払いをするための講習会の開催、市職員によるパトロールの実施、農地と山林の間の緩衝帯づくりによる獣害の防除を行う。	生ごみの減量化として、過去からの生ごみ堆肥化容器に対する補助金の交付件数(旧町からの累計を基に設定)	2018年 2,801 件	2022年 2,878 件	2022年 2,860 件	131%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIの数値目標を増加するなどの見直しを行い更なる推進を図る予定。
13	希少動植物保全事業	専門家による市内の植物調査を行い、その結果を報告書としてまとめることにより、適正な保全対策の実施につなげる。						
14	不法投棄防止啓発事業	啓発看板を作成し、希望する自治会へは、年間5 枚を上限として配布。不法投棄の重点監視地域を設定し、環境パトロール員が巡回する。また自治会の地域清掃等で発見した不法投棄物や市施設内への不法投棄物の処理を行う。						

三重県いなべ市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
15	環境調査事業	環境騒音測定、道路交通振動測定、自動車騒音常時監視測定及び面的評価業務といった法令に基づき実施しているものや、河川水質検査、農業用水路水質検査、事業所騒音測定といった地元との協議に基づくもの、現状把握のための調査を行う。	環境調査として検査または測定する件数(累計)	2018年 47 件	2022年 188 件	2022年 188 件	100%	目標が達成できているが、現状を維持するため、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
16	ごみ減量化推進事業	生ごみの堆肥化で土作りをすることで生ごみの減量化を促進し、ごみの搬入量を低下させようと、生ごみ堆肥容器購入額の半額を補助(上限5,000 円)						

（４）三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（自治体 S D G s モデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済→環境】森林整備面積（各年）	2018年 5 ha	2022年 5 ha	2022年 10 ha	0%	目標達成に向け、2期計画でも引き続き取り組むこととした。 国や県の補助金、森林譲与税を活用し、地域内の林業事業者と連携し、森林整備を進める。 なお、令和 6 年度から、県事業として作業道整備から準備を進めている。
2	【環境→経済】地域産業創出数(各年)	2018年 2 件	2022年 3 件	2022年 4 件	50%	目標達成に向け、2期計画でも引き続き取り組むこととした。
3	【経済→社会】商工会への加入団体数(累計)	2018年 967 件	2022年 985 件	2022年 1,024 件	32%	目標達成に向け、2期計画でも引き続き取り組むこととした。 SDGsの幅広いワークショップや市内で実施するマルシェ等を通じて、商工会加入を呼びかけるなど対策を行う。
4	【経済→社会】自治会加入世帯数（各年）	2018年 10,835 件	2022年 11,295 件	2022年 11,000 件	279%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを推進する。
5	【社会→経済】空き店舗活用等による出店件数（累計）	2018年 1 件	2022年 3 件	2022年 4 件	67%	目標達成に向け、2期計画でも引き続き取り組むこととした。
6	【社会→環境】新規就農者数（各年）	2018年 12 人	2022年 3 人	2022年 15 人	-300%	目標達成度が低いため、第2期計画では各年指標から累計指標に変更を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
7	【環境→社会】空き家バンク登録物件の契約成立件数（各年延べ）	2018年 6 件	2022年 11 件	2022年 10 件	125%	目標達成に向け、2期計画でも引き続き取り組むこととした。

三重県いなべ市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（５）第 1 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

- 特筆すべき事業内容
 - （１）指標1、（３）指標1、（４）指標3 商工会への加入団体数については、近年、経営者の高齢化により事業継承されず廃業するケースが多く、加入者の減少傾向にありましたが、グリーンクリエイティブいなべによる地域活性化事業を進めたこともあり、2018年の当初値より増加傾向となっています。今後も引き続き、創業支援により創業された方に商工会への加入を促し、地域経済の支援を行う必要があります。
 - （１）指標4 中学校学級満足度調査については、互いの存在を尊重し合い、共に生き合う学級集団の形成に主体的に活動できる生徒の育成に取り組んでおり、年間２回（５月・11月）のQ-U調査により、自己肯定感や他者との関わり方、進路意識等の状況を把握・分析し、取組を進めています。中学生に関しましては当初計画と比較し、大幅な減となりましたが、昨年度の割合より向上しています。引き続き満足度の向上を図ります。
 - （１）指標5 子育て支援センター利用者数については、少子化に加えて、コロナ禍により、イベントも縮小又は廃止があったことから、当初計画値と比較し、大幅な減少となりましたが、前年度と比較して3,000人程度増加となりました。
 - （１）指標6、（４）指標1 森林整備面積は目標を達成することができていないことから、地域住民や地域のプレイヤーを巻き込み、新たなチャレンジの場を創出します。
 - （２）指標1 いなべ版フェア&カジュアルSDGs登録数については、推進パートナーの登録は目標値に達しませんでした。市内のSDGs実践取組事業者数は、年々増加の傾向にあります。こちらの事業者を推進パートナーとなってもらうため、啓発・普及を進めていきます。
 - （３）指標9 福祉バスの乗車数については、2020年度から路線の見直しを行ったため2021年度よりは増加しましたが、コロナ禍の影響もあり目標値を大幅に下回りました。今後は、市民の要望に寄り添いながら、停留所の位置変更や路線の見直しなどを行い、利便性の向上を図る必要があります。
 - （４）指標6 新規就農者数について、新規就農支援制度終了後も自立自走できる就農者を増やすため、事前相談、事前支援を必ず実施していますが、新規就農者支援制度を活用した新規就農者数の増を図ることができませんでした。指標を各年から累計に変更するなど、利用状況に左右されないKPIの設定を図る必要があります。
- 成果
 - いなべ版SDGsの普及啓発、官民連携プラットフォーム化については、市内小中学校を対象としたSDGs学習会が好評のため、目標値を大幅に上回っています。このことにより、SDGsの裾野を広げることに貢献できていると考えています。
- 課題
 - 全体を通して、目標が達成されているものが、半数程度のため、KPIの見直しも見据えて事業に取り組む必要があります。
- 今後の展望
 - 目標達成に向け、施策に新たな工夫を加え、事業を進める必要があります。

（６）有識者からの取組に対する評価

- ・いなべ版SDGsの普及啓発、官民連携プラットフォームなど、他地域への展開も意識した今後の展開を期待したい。
- ・商工会への加入団体数を指標としていることの妥当性については、第 2 期計画において、わかりやすい説明が必要。第 1 期はコロナ禍で苦勞されたこともあったと思われるが、第 2 期計画では現状を改めて見直し、現実的な目標と指標に変更するなどし、進めるとよい。